

# アウトリーチ

通信



第 25 号

2015 年 3 月 20 日発行  
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部  
アウトリーチ・センター

## 子どものための コンサート・シリーズ

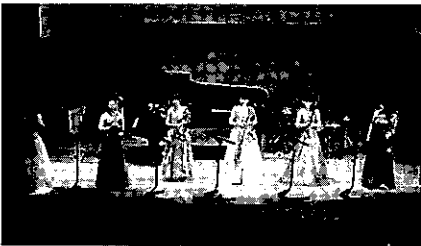
### スペシャル・コンサート

「子どものためのスペシャル・コンサート」トロンボーンの魅力（子どものためのコンサート・シリーズ第四〇回）を十月十三日（土）に本学講堂で開催しました（十一時と十五時の二回公演、各六十分、来場者計三百十一名）。

本シリーズ初の金管楽器が主役のコンサートで、出演は音楽学部の卒業生を中心とする「ベルカント・トロンボーン・Bell

Canto Trombone（歌うトロンボーン五人組）（トロンボーン／鶴房采花、藤井美波、吉田梨絵、小南友里加、バス・トロンボーン／田村佳子）とピアノ（松尾璃奈）とお話（祐成麻奈末）の七人です。

オープニングは、出演者でミュージック・クリエーション専攻卒業生の吉田梨絵が書き下ろした「ベルカント・ファ



ンファレーンで、後方や二階など会場のあちこちから奏者が登場して掛け合いを繰り広げた後、舞台上に五人が勢揃いしました。挨拶に続いて、J. S. バッハ『マタイ受難曲』のコーラル（我、汝がみもとにとどまらん）と J. ハイドンのオラトリオ『天地創造』から「大いなる偉業がなしとげられた」を四重奏で演奏し、「神様の楽器」と呼ばれたトロンボーンの歴史に思いを馳せてもらいました。楽器の構造の特徴としてスライドを、またストリート・ミュートやワウワウ・ミュートを紹介した上で、G. ロッシーニ（二匹の猫の愉快な

二重唱）を演奏し、ミュートの効果を実感してもらいました。

ここでト

ロンボ

ーン・ファミリーの紹介です。アルト、テナーバス、バスと三種のトロンボーンが舞台に勢揃いして、大きさを較べた上で、音を聞き較べました。これら三種の楽器による三重奏で（紅葉

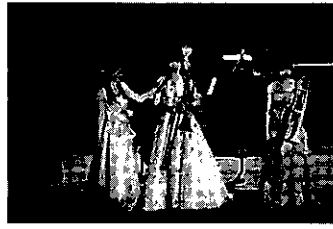
「小さい秋みつけた」（赤とんぼ）の三曲をつないだ吉田梨絵編曲『秋の歌メドレー』を演奏した後、会場の子どもたちにも一緒に（へもみじ）を歌ってもらいました。

甘く優しい歌を歌うのが得意なトロンボーンの魅力を発揮する曲として、サン＝サーンス（カヴァティーナ）を独奏で演奏した後、ガラツと雰囲気を変えて、



ジャズの名曲として知られるし、ウッド作曲（サムバディ・ストール・マイ・ギャル）を三重奏で、G. プッチーニのオペラ《トウランドット》からカラフのアリア（誰も寝てはならぬ）を二重奏で演奏しました。

カラフルなプラスチックボードとスライド・ホイスルを紹介し、色違



いのピーボーン五本とスライド・ホイスルとピアノで（おもちゃのチャチャチャ）を演奏しました。最後は、J. アグレル（ゴスペルタイム）を四重奏にドラムを加えた編成で演奏して締め括りました。

今回のコンサートではトロンボーンについて、「神様の楽器」と呼ばれていたこと、ミュー

を使っていろいろな音色を出せること、伸びやかによく歌う魅力的な楽器であること、教会でもオーケストラでもジャズでも活躍する楽器であることなどを伝え、演奏ではソロからデュオ、トリオ、クアルテット、クインテットまでさまざまな組合せでいろいろなジャンルの曲を演奏しました。

終演後には、楽器体験コーナー（ピーボーン、ピアノ、中型と大型のパイプ・オルガン、フルート）に、初めての試みとしてスライド・ホイスルを作る工作コーナーを加えたところ、大変好評でした。



（津上智実・記）

## クリスマス・コンサート

十二月十

三日（土）

十一時から

本学講堂で

「子どもの

ためのクリ

スマス・コ

ンサート」

と歌で綴る

クリスマスの物語」（子どものためのコンサート・シリーズ第四十一回）を開催しました（六十

十分、来場者五百二十九名）。

「子どものためのクリスマス・コンサート」でオルガンを中心に据えるのは今回が初めてです。「クリスマスとは何か」「なぜクリスマスをお祝いするようになったのか」と問いかけて、その始まりのお話をイラストで示しながら、オルガンを中心に歌とヴァイオリンとチェロも加わって、クリスマスにふさわし

い音楽と共に進める形で構成しました（企画、構成、台本作成・津上智実）。

出演は日本を代表するオルガニスト松居直美（聖徳大学教授、本学音楽学部非常勤講師）を中心に、本学卒業生の菊本恭子（ヴァイオリン）・小林真奈美（同）・黒田育世（チェロ）・鬼一薫（ソプラノ、司会）の助演を得ました。第二専攻としてオルガンを学んでいる学部三年の見野綾子（中オルガン）とオーデিশヨンで選ばれたナレーション役の山田りさ（打楽器専攻三年生）も加わりました。

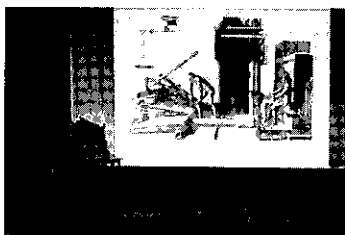
全体は第一部「オルガンの



ミニ講座」（十三分）、第二部「クリスマス物語」（四十二分）、

第三部「クリスマスの歌を歌おう」(五分)の三部仕立てです。

開幕はD. ブクステフーデ(第一旋法によるマニフィカト) BuxWV二〇三(大オルガン・松居)。挨拶に続いて、オルガン



の構造と各種のパイプをイラストと模型で紹介しました。

メインの第二部は「クリスマス

物語」。本公演のためにイラストレーターの大鹿智子書き下ろした絵を舞台スクリーンに映写し、女学院にふさわしいドイツ・バロックの名曲を集めて、お話と音楽が交互に進むように組み合わせました。

野原の羊飼いの場面ではJ. H. シュメルツァー(ソナタ・パストレッツァ)(中オルガン・見野)、

天使が現れる場面では

J. S. バッハ(高き天より我は来たり) BWV七

三八(大オルガン・松居)、

天使のお告げの場面では同(甘

き喜びに包まれ) BWV七二九(同)、歓びの歌としてH. シュ

ツツ《クリスマス・オラトリオ》より第一インテルメッツォ(恐れることはない)を二階バルコ

ニーから(大オルガン・松居、弦三部、ソプラノ)、ベツレヘム



に向う羊飼いの場面ではバッハ(いざ来ませ、異邦人の救い主よ) BWV六五九(大

オルガン・松居)、幼子イエスの

場面ではP. ベーデッカー(イエスは生まれたまいぬ)(中オルガン・見野、チェロ、ソプラノ)、

三博士の来訪の場面ではバッハ(神よ、汝の慈しみによりて)

BWV六〇〇(大オルガン・松居)、三博士が帰っていく場面では

バッハ(パストレッツァ) BWV五九〇の三(同)と進み、ブ

クステフーデの(神はそれほどこの世を愛してくださった) BuxWV五(同)で締め括りました。

第三



部では大オルガンの

伴奏で讃美歌一〇六番(荒野の果てに)と一二番(諸人こぞりて)を会場の全員で歌い、オルガンの後奏に耳を傾けて終演となりました。

終演後には中オルガン、グラ

ンドピアノ、ヴァイオリンの楽器体験と大オルガンの見学会を実施し、とりわけ見学会には長蛇の列ができました。

何度もアンサンブルの練習を重ねてくれた出演者のお蔭で、音楽的に充実した演奏会となったことを記して感謝します。

(津上智実・記)



大阪市立総合医療センター

十月八日(水) 十四時半から  
大阪市立総合医療センター(大  
阪市都島区都島本通二・十三・  
二十二) さくらホールで「オー  
タムコンサート」(四十五分)を  
行いました。出演は、寺脇優子

(ソプラノ)、中川真帆(ピアノ)、  
金盛由妃(ピアノ)、村田夏帆(ピ  
アノ)、蝦名真央(ヴァイオリン)、  
三木理花絵の六名です。

秋をテーマに、季節を感じら

れる日本の歌や昔懐かしい歌謡



曲も織りまぜ  
つつ、患者さ  
んにも参加し  
てもらって一  
緒に楽しめる  
コンサートを  
めざしました。

オープニングでは、マクガイ  
ア&スパークス(グリーン・グ  
リーン)を出演者全員で演奏し  
ました。挨拶に続いて、シェー  
マン《ミルテの花》より《献呈  
をソプラノで歌い、「ピアノの魔  
術師」と呼ばれたリストがこの  
曲をピアノ独奏用に編曲したと  
紹介して、リスト編曲の《献呈  
をピアノで独奏しました。

次に、ピアノとヴァイオリン

による

《赤と

んぼ》に

あわせ

て深呼

吸や手

を振る

などの

体操を



患者さんと一緒に行なったとこ  
ろ、多くの人が楽しそうに参加  
してくれました。身体がほぐれ  
たところで、皆で一緒に山田耕



笹(赤とんぼ)  
と岡野貞一  
《紅葉》を歌  
いました。

ピアノ独奏  
の《秋のささ  
やき》と《白  
い恋人たち》

で秋の雰囲気を感じて頂いた後、  
《幸せなら手を叩こう》で聴衆  
参加を行ないました。「幸せなら

♪」の替え歌に合わせて多くの  
の患者さんが笑顔で肩を回した  
り膝を叩いたりしてくれて、会  
場が和やかな雰囲気になまらま  
した。

ブラームス

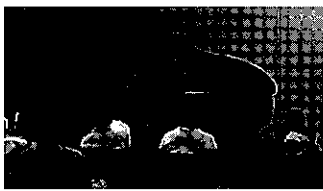
《六つの小品》

作品一八よ

り二番をピア

ノ独奏で、チャ

イコフスキー



《懐かしい土地の想い出》より  
《メロデー》をヴァイオリンと

ピアノで演奏し、続いてソプラ  
ノで村松崇継(いのちの歌)を  
歌うと、多くの方が涙を流しな  
がら聴いて下さいました。



最後に会  
場の皆さん  
と一緒に中  
村八大(上  
を向いて歩  
こう)を歌  
い、アンコ  
ールに込め  
て再度《赤

とんぼ》を一緒に歌いました。

演奏を通して患者さんと心が  
通い合い、音楽の持つ力を改め  
て実感するとともに、今回学ん  
だことをこれからの実習に繋げ  
ていきたいと思いました。

(三木理花絵・記)

# 兵 中央病院

十一月三十一日(金) 十四時

から国立病院機構兵庫中央病院  
(三田市大原二三四) 三階デ  
イルームにて秋のコンサート  
(四十五分)を行いました(ピ  
アノ・上田美幸、中川真帆、三  
木理花絵、声楽・城井礼衣子、  
寺脇優子、ヴァイオリン・蝦名  
真央、オーボエ・樋口成香、お  
話・今川裕美)。

まず出演者全員でB・マクガ  
イア&L・スパークス作曲(グ  
リーン・グ  
リーン)を  
演奏し、続  
く挨拶で  
は、「今日  
は身近な  
秋の歌か  
らクラシ  
ックの曲  
まで、皆さ



んと一緒に音楽を楽しんでいき  
たい」と伝えました。

村松崇継作曲(いのちの歌)、



モーツァ  
ルトのモ  
テット《踊  
れ、喜べ、  
幸いなる  
魂よ》より  
(アレル  
ヤ)をピア

ノ伴奏で独唱した後、山田耕柊  
作曲(赤とんぼ)、小林秀雄(ま  
つかな秋)と岡野貞一(紅葉)  
をピアノ伴奏に乗せて会場の皆  
で歌いました。ここにオーボエ  
とヴァイオリンも加わって、色  
彩感のあるアンサンブルになり  
ました。

ブラームスの《ワルツ》 作品  
三十九の第一、十一、十五番を  
ピアノ連弾で演奏し、次々に移  
り変わる曲調を味わってもらい  
ました。大島ミチル作曲(風笛)

をオーボ  
エとピア

ノ伴奏で

演奏しま

したが、

演奏前に

オーボエ

の豆知識

を紹介し

たところ、興味深そうに話を聞  
くお客様の姿も見られました。

チャイコフスキーの《なつか

しい土地の思い出》より(メロ

ディ)をヴァイオリン独奏で演

奏し、最後

に中村八

大作曲(上

を向いて

歩こうと

岡野貞一

作曲(ふる

さと)をピ

アノ伴奏

で会場の



全員で歌いました。フルートと  
ヴァイオリンも入り華やかな演  
奏になりました。アンコールは  
お客様のリクエストで(上を向  
いて歩こう)を演奏しました。

演奏中はあちこちでお客様の  
笑顔が、時には涙が流れること  
もあり、温かな雰囲気の中でコ  
ンサートを終えることができました。  
一生懸命仕上げた演奏会  
に、笑顔や涙や拍手を頂くこと

の喜びを  
改めて感  
じて、終  
演後は胸  
が熱くな  
りました。  
このよう  
なコンサ  
ートがで  
きたことをうれしく思います。



(今川裕美・記)

# 春風幼稚園

十一月十一日(火)十時から、春風幼稚園(西宮市今津野田町二一六)二階ホールにて園児を対象とする「秋のわくわくコンサート」(四十分)を行いました(声楽・城井礼衣子、寺脇優子、ピアノ・今川裕美、上田美幸、中川真帆、お話・益田多夏、三木理花絵)。

「音楽で心をつなげよう」をテーマに、曲から伝わる気持ちや、みんなで一緒に音楽を楽しむことによってつながる気持ちを感じてもらいたいと思って、プログラムを考えました。

まずは出演者全員でマクガイア&スパークス(グリーン・グリーン)を歌って開幕です。アンドリュー・ロイド・ウェバーの(ピエ・イエズ)をソプラノのデュオで演奏し、二人で奏でるハーモニーに耳を傾けてもら

いました。

ピアノ独奏でプロコフィエフの組曲《ロミオとジュリエット》より第六番で怒りの表現を感じてもらった後、園児と一緒に(大きな栗の



木の下で)を振りをつけながら一緒に歌いました。ゆっくりのテンポから、ど

んどんテンポを速くしていったところ、一生懸命ついてきてくれました。キラキラした笑顔で、一生懸命歌って動いて、園児たちの楽しそうな表情を見てとてもうれしく思いました。

ピアノ連弾でオッフェンバックの(天国と地獄)を演奏したところ、「運動会の曲だ!」とす

ぐに気付

いてくれる園児がたくさんいました。



C・ア

ンダーソン||ロペス、R・ロペス作曲《アナと雪の女王》より(レット・イット・ゴー)を一緒に歌ったところ、子どもたちは歌詞をすみずみまで覚えて大合唱になりました。リチャード・ロジャース作曲(ドレミの歌)も園児と一緒に歌いました。歌う前に、ド・レ・ミ・フ



ア・ソ・ラ・シ・ドの音の札を見せ、音の階段になってることを確認し、歌に合わせて高く掲げま

した。久石譲の(ねこバス)をピアノ連弾で演奏し、最後に出演者全員で同じく久石譲の(となりのトトロ)を歌ったところ、園児たちも大きな声で一緒に歌ってくれました。

初めての幼稚園でのアウトリ



ーチで不安でしたが、たくさん笑顔をもらい、子どもたちがよい空気を作ってくれたと感じました。音楽の楽しさが届いたことがとてもうれしかったです。

(中川真帆・記)

# 神戸市立医療センター

十一月二十日(木) 神戸市立

医療センター中央市民病院(神戸市中央区港島町四一六)の院内コンサート(四十分)に出演しました(ピアノ・中川真帆、上田美幸、フルート・鈴木晴子、声楽・城井礼衣子、寺脇優子)。身近な秋の音楽からクラシックまで、様々な音楽を皆様と一緒に楽しみたいという思いで取り組みました。

始めに顔見せを兼ねてマクガイア&スパークス作曲の(グリーン・グリーン)を出演者全員で演奏しました。

挨拶の後、モーツァルト作曲(アレルヤ)を演奏し、クラシックに触れて頂くと同時に華やかな空気をつくりだすことができました。次に村松崇継作曲(いのちの歌)を演奏しました。対照的な雰囲気曲でしんみりと

した後、山田耕筰作曲(赤とんぼ)をバックに、皆様と一緒に深呼吸や手を挙げたり伸ばしたりする体操を行いました。体をほぐして歌う準備ができたところで、季節の歌を三曲、(赤



とんぼ)、小林秀雄作曲の(真つ赤な秋)、岡野貞一作曲の(紅葉)を皆様と一緒に歌って楽しみました。

次にブラームス作曲(ワルツ)作品三十九より



第一、十一、十五番をピアノソロ、ブラームス作曲の(ハンガ

リー舞曲集第五番)をピアノ連弾で演奏し、最近の曲である大島ミチル

作曲の(風笛)

をフルー

ト・ソロ

で演奏し

ました。

最後に、



中村八大

作曲(上を向いて歩こう)、岡野貞一作曲(ふるさと)を会場の皆さんと歌って、再び一緒に楽しむことができました。

時間に余裕があったので、お客様からのリクエストに応じて(赤とんぼ)を歌いました。

終演後、「こういうのって本当に勇気をもらうのよね」と涙を流しながら手を握りに来てくださる方もあって、私たちにとても心温まる時間となりました。

入院している人々に音楽がもた

らす力は私たちの想像以上のものがあるということを、後日病院から送って頂いた来場者アンケートを見

て学びまし

た。そのこ

とを忘れず

に、これか

らもよい思

いを持って

取り組んで

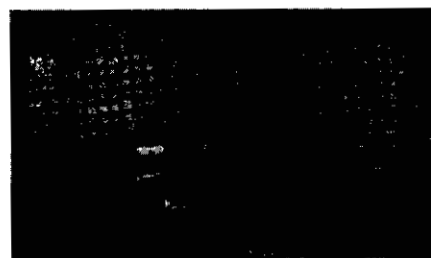


(寺脇優子・記)



# 野●病院

十一月二十九日(土) 十三時  
四十五分、野木病院(兵庫  
県明石市魚住町長坂寺一〇〇三  
一)にて「オータムコンサート」  
(四十五分)を行いました(ソ  
プラノ・城井礼衣子、寺脇優子、  
ピアノ・上田美幸、中川真帆)。  
今回は、身近な秋の曲からクラ  
シックの曲まで、幅広い音楽を  
お客さんと一緒に楽しみたいと  
いう思いでプログラムの構成を  
考えました。



最初に、マクガイア&スパー  
クス作曲  
(グリー  
ン・グリー  
ン)(声楽、  
ピアノ)を  
出演者全  
員で演奏  
して幕開  
けとしま

次は雰囲気  
をがらつと変  
えて、村松崇  
継作曲(いの  
ちのうた)(声  
楽、ピアノ)。  
いのちを授か  
り、その大切  
さを日々感じ  
る毎日、今この場にいられるこ



その後は、ブラームスのピア  
ノ連弾を二曲、《ハンガリー舞曲  
集》より第一番と《ワルツ》作  
品三十九より第一、十一、十五  
番とを演奏しました。  
最後は中村八大作曲(上を向  
いて歩こう)と岡野貞一作曲(ふ  
るさと)を皆さんと一緒に歌い、  
コンサートの締めくくりとしま  
した。

幸いなる魂よ」より(アレルヤ)

(声楽、ピアノ)とを演奏しま  
した。モーツァルト独特の華や  
かで軽やかなメロディに耳を傾  
けて頂きました。



した。次に、モ  
ーツァルトの  
作品を二曲、  
(きらきら星  
変奏曲)よりテ  
ーマと三つの  
変奏(ピアノ)  
と、《モテット》  
「踊れ、喜べ、  
んぼ」、  
岡野貞

とに感謝しつつ演奏しました。  
ここで軽い体操を挟み、身体  
が少しほぐれたところで、小林  
秀雄作  
曲(真つ  
赤な秋)、  
山田耕  
筈作曲  
(赤と  
んぼ)、  
岡野貞  
一作曲(紅葉)の三曲を皆さん  
と一緒に歌い、秋を実感して頂  
きました。



今回のコンサートは、「一緒に  
音楽を楽しむ」ことに重点を置  
いたので、皆で一緒に歌うプロ  
グラムを多く取り入れました。  
一緒に歌って頂けるか不安な部  
分もありましたが、会場を見渡  
すと、たくさんの方が笑顔  
で歌って下さ  
っていて、ほ  
っとしました。  
アットホーム  
な和やかな雰  
囲気を作って  
コンサートを盛り上げてくださ  
った病院関係者の皆さん、職員  
の方々、そしてお客様に感謝し  
ます。ありがとうございました。  
(城井礼衣子・記)





## ●ものための

### 音楽づくりワークショップ

九月二十七日(土)九時半から十六時まで第五回「音で遊ぼう! 子どものための音楽作りワークショップ」を本学音楽館ホールで開催しました(参加は学生十三名、学外者四名、子ども二十一名)。

これは英国ギルドホール音楽院で培われて来たクリエイティブ・ミュージックの優れたプログラムに学ぶ形で、二〇〇七年から〇八年、一二年、一三年と



実施してきたもので、今回が五回目です。同校リーダー

シップ修士課程修了の若い音楽家二名(ポルトガル出身の音楽家テレーザ・カンボスとオランダ出身の作曲家ヒール・ビュッシエ)を日本に招聘し(最初の

三日間は本学卒業生で同リ

ーダーシップ修士課程修了の東瑛子もリーダー



ーとして参加)、九月二十四日から四日間、学生対象の「音楽作りワークショップ特別研修」を行い、その仕上げとして最終日に近隣子どもたちの参加を得て実施しました。この研修は「三大学(本学音楽学部、東京音楽大学、昭和音楽大学)連携」プロジェクトの一環で、誰もが持つ



っているクリエイティブな力を音楽によって引き出し、共に音楽を生み出して

いくために必要な視点と方法を学んで、実践力を身につけることを目的とするものです。

当日は、アイスブレイク、数字遊び(一二三から好きな数字を選び、一を選んだ人は床に坐り、二は膝立、三は立つという形で並んで、それを皆で一二三・一二二・一一



二三といったリズムとして読み上げていく)でリズム作りをする、三グループに分かれて「なぜ世界はこんな

に美しいのだろう Why is the world so beautiful?」という問いかけに答える形で歌詞作りをするといったステップを経ながら、学生と子どもたちがアイディアを出し合って自分たちのフレーズやリズムを作り上げていきました。それらを組み合わせ、最後にお迎えの保

護者を前に十五分ほどの作品発表を行ない、大きな拍手をもらいました。

大学院文学研究科通訳コースの院生三名が、指導の奥村キャサリン先生、中村昌宏先生と逐次通訳でサポートしてくれたことを記して感謝します。

(津上智実・記)



## 履修生紹介

四年生（十三期生六名）からの

メッセージ

今川 裕美（ピアノ）



前期は七  
タコンサー  
ト、後期は複  
数の訪問演  
奏で、非常に

充実した一年を過ごすことが  
できました。短期間での本番の積  
み重ねは、前回の失敗を次に生  
かすこと等、さまざまなスキル  
の上達に繋がりました。アウト  
リーチを取ると「暇な四回生」  
として過ごすことはできません。  
その代わりに、この活動を通し  
てしか得られないものを得るこ  
とができると思います。

四回生はソロ・リサイタル等、  
いろいろな大変ですが、時間はで

きるものではなく作るもの。や  
ろうと思えば人間、自分が思う  
よりもできてしまうものです。  
自分の中の壁を取っ払ってがん  
ばってください。

三木 理花絵（ピアノ）



この実習  
を通して病  
院や幼稚園  
を訪れ、多く

の人に音楽

を届ける中でたくさんのことを  
学ぶことができました。一つの  
コンサートを企画し、皆で協力  
して作りあげの中でさまざまな  
発見があり、お互いの意見を交  
換し、対象者のことを考えなが  
ら何度も試行錯誤して、演奏会  
に臨みました。一つ一つのコン  
サートでの出会いが心の支えと  
なり、次への励みとなりました。  
音楽を通して心が通じ合うとい  
うのは貴重な経験です。

ぜひ皆さんもこの授業を通し  
て、人との出会いを大切にしま  
がら、さまざまな場所へ音楽を  
届けてください。

中川 真帆（ピアノ）



アウトリー  
チの活動で、コ  
ンサートを作  
っていくむず  
かしさ、伝える

ことのむずかしさと同時に、音  
楽の可能性をたくさん感じるこ  
とができました。聴いて下さる  
人のことを考えて、プログラム  
を作って練習をするのは大変で  
したが、実習先では聴衆の笑顔  
に何度も助けられました。近い  
距離で演奏することによって、  
雰囲気や空気を感じ、一緒に音  
楽を楽しむこともできました。  
アウトリーチは、音楽を通して  
たくさんさんの笑顔を見ることが  
できる、そして自分自身たくさん

の気持ちに気づくことができる  
すばらしい授業です。

城井 礼衣子（声楽）



私は、アウ  
トリーチ実習  
を通して、演  
奏面に関して

はもちろん、内面的にも成長で  
きたことが大きいように感じま  
す。「常にお客さんの立場に立っ  
て考える」ことは簡単ではあり  
ませんが、仲間で協力しあい、  
妥協せずに試行錯誤を繰り返し  
た結果、いいものができた時に  
は、言葉にできない達成感がこ  
み上げてきました。これから社  
会の中で音楽とどのように関わ  
っていきたいか、どのような音  
楽が必要とされているのか、私  
に何ができるのか・・・自分自  
身で音楽を発信していくことの  
大切さ、そして音楽の可能性は  
無限であることを知りました。

寺脇 優子（声楽）



アウトリー

チの授業では  
メンバーや先  
生方と時間を  
かけて意見を

交換することで、様々な角度から考え学ぶ貴重な時間を持つことができました。

人前で話すことに対して少しずつ自信を持つことができて、対象となる人にどう寄り添うかをみんなと考えていく中で、自分に足りないものを発見する機会にもなりました。

これほど多くの場所で演奏できたのもアウトリー実習のおかげであり、こうした時間の中で同じ学年のメンバーとの交流が深まったこともうれしく思います。

ぜひ多くの人に履修することをおすすめしたい授業です。

上田 美幸（ピアノ）



実習を通し

て一番印象に残っているのは、聴いて下

さる方々の表情です。

温かい表情や、時に涙を流しながら聴いて下さって、演奏会後には笑顔で「来てくれてありがとう！元気が出た！」と言って下さる方もあって、とてもうれしく思いました。小学校や幼稚園でも、真剣に聴いてくれる場面や、一緒に歌って楽しむことができた場面など、いろんな表情にさせてくれる「音楽」のすばらしさや演奏する喜びを改めて感じました。

大変なことはたくさんありましたが、とても貴重な経験ができました。この経験をぜひ後輩たちにしてもらいたいと思います。

「音楽によるアウトリーチ（講義）」

履修生（三回生十三名）

青田恵里香（人間科学部）岩井香那（フルート）

〔後列左から〕

椿彩華（人間科学部）喜多望有（フルート）

樋口成香（オーボエ）丹野桃子（ピアノ）

尾崎文子（ヴァイオリン）神田幹子（声楽）



〔前列左から〕

田中佑奈（フルート）岡亜梨沙（フルート）

尾形佳那恵（ピアノ）山田りさ（打楽器）和田悠加（ピアノ）

## 2014年度 実習歴

- |     |     |     |                                 |
|-----|-----|-----|---------------------------------|
| 7月  | 5日  | (土) | 子どものためのセタコンサート (シリーズ第 39 回)     |
| 9月  | 27日 | (土) | 第5回「音楽で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」  |
| 10月 | 8日  | (水) | 大阪市民病院機構大阪市立総合医療センターアウトリーチ      |
| 10月 | 11日 | (土) | 子どものためのスペシャル・コンサート (シリーズ第 40 回) |
| 10月 | 31日 | (金) | 国立病院機構兵庫中央病院アウトリーチ              |
| 11月 | 11日 | (火) | 西宮市立春風幼稚園アウトリーチ                 |
| 11月 | 20日 | (木) | 神戸市立医療センター中央市民病院アウトリーチ          |
| 11月 | 29日 | (土) | 野木病院アウトリーチ                      |
| 12月 | 13日 | (土) | 子どものためのクリスマス・コンサート (シリーズ第 41 回) |
| 12月 | 17日 | (水) | 雲雀丘学園小学校アウトリーチ                  |
| 3月  | 5日  | (木) | 国立病院機構刀根山病院アウトリーチ(予定)           |

**音楽をお届けします！！**

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場ですてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、  
子どものための楽しい体験学習を！

♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽  
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター (月～金 10:00～15:00)

〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551

E-mail : [outreach@mail.kobe-c.ac.jp](mailto:outreach@mail.kobe-c.ac.jp)      <http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

## 編集後記

今年の4年生は少数精鋭でよくがんばりました。卒業後の活躍に期待します。(津上)

今年も充実した1年でした♪既習生の皆様のご活躍をお祈りします。(寺澤)

新しいスタッフと共に、楽しく充実した1年を送ることができました♪ (藤野)

あっという間の1年でした。13期生の皆様のご活躍をお祈りしています！（森）

たくさんの実習やコンサートに関わることができ、私もすばらしい経験ができて感謝です！（中川）